

研究課題別中間評価結果

1. 研究課題名

日常生活を拡張する着用指向情報パートナーの開発

2. 研究代表者名

木戸出 正繼（奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 教授）

3. 研究概要

知的活動を支援する着用指向情報パートナーWIPS（Wearable Information Playing Station）ならではの新たな利用方法を提案する知的アプリケーション、音声や画像を利用して WIPS に適した新しい入出力方式を開発する入出力インタフェース、マルチメディア情報処理を核に据えた新しい OS、及び資源分散型 DBMS を作成するプラットフォーム基盤の3つのサブグループからなり、日常生活空間での各種情報活動支援機能群を実装する。これまで、各サブグループで各要素技術の高度化を進めてきた。

4. 中間評価結果

4-1. 研究の進捗状況と今後の見込み

日常生活における情報活動支援のための着用指向情報パートナーに向けて、生活の場面を想定した個別要素技術の開発が幅広く精力的に進められており、計画に沿って進捗していると思われる。多数のテーマが並行して進んでおり、それぞれの要素技術の高度化を目指しているが、今後はこれらをどのようにまとめ、統合していくかが重要な課題である。5年間の研究期間で全ての統合を実現することは困難としても、統合に向けての方向性が明確にされることを期待する。

4-2. 研究成果の現状と今後の見込み

拡張記憶アルバム、拡張現実感ナビゲーション、着用型仮想タブレットなど、ユニークなアイデアを具体化して個別の要素技術としては着実に多くの成果を挙げている。論文発表も多く活発に情報発信が行われている。研究内容が幅の広い研究課題であり、方向を誤ると発散してしまう危険性もあるため、今後は全体を統合する抽象的理念をより具体的なものとして、入出力技術、OS、データベースなど各要素技術が有機的に統合され、機能する真の統合に向けての努力を期待したい。

4-3. 今後の研究に向けて

ウェアラブルという状況に特有な問題やそのための新しい技術を明確にし、本当に役に立つウェアラブルシステムの基本的な方法論、技術が展開されることを期待する。

4-4. 戦略目標に向けての展望

取り上げている具体的テーマは社会や企業にとって興味深いものであり、将来それらの応用システムを社会還元につなげるためにも、社会に受け入れられるために満たすべき要件を事前に明らかにしていくことが重要である。

4－5．総合的評価

「高度メディア社会の生活情報技術」という研究領域に即した研究課題であり、個人の日常生活を支援するための情報技術として期待は大きい。多くのテーマを並行して進め、それぞれが具体的な成果を挙げていることは高く評価できる。しかし、将来社会に受け入れられて人々の役に立つものとするためには、更に解決すべき課題も多い。今後の研究でこれらの課題を明確にすると共に、その解決に向けての方向が示されることを期待する。